

## 「九州特集に際して」

副会長 松尾 憲一郎

1. この度パテント誌で「九州特集」を組むという話をお伺いしてこれは大胆なちょっと強引な企画かと不安がよぎった。

思い起こすに、この企画のきっかけはおそらく私のパテント編集委員会担当副会長としての発言にあったのかと思う。

せっかく九州から日本弁理士会の会務に携わることとなった私としては当委員会に九州特集などいかがかと発言したような気がする。

ただ、全国の地区部会の中にあって最大会員数を誇る九州部会のお膝元九州は何としてでも注目していただきたい所との思いはあった。

加えて九州の中心地・福岡市は今、全国で元気度抜群の町でもある。

更には、福岡県知事は元特許庁長官の麻生渡氏であることも思い合わせるとパテント編集委員会が「九州特集」を企画されたことはあながち私の思い付きへの便乗でもないと確信している。

2. ところで、「九州」を「特集」するとなればその特集スタイルを決定しなければならない。パテント編集委員会との協議の結果、座談会形式で「知財」に関連した4~5名の人材で思いっきり九州・福岡を吐露していただくことと相成った。

当然ながら私も話のつなぎに口を挟ませていただくことで了解を得た。

司会は当委員会のベテラン・正林委員にお願いすることにより「九州特集」の企画がスタートした。

企画の第1歩は座談会の人材人選だが、これは地元出身の私が入選するしか無いわけでそれこそ独断と偏見で行政・大学・民間を中心に幅広い人材人選にさせていただいた。

まずは、特許庁に關係する行政分野から九州経済産業局の武田特許室長、同じく行政分野で福岡県商工部の新産業技術振興課の松家課長、今一番知財で注目度の高いTLOを代表して株式会社産学連携機構の鎌水社長、そして、本年度（2004年）の10月に福岡市で開催予定のAPAA福岡理事会に献身的支援をいただいている福岡市を代表して福岡コンベンションビューローの小塩専務理事という布陣で当委員会の丸山委員長の挨拶を皮切りに座談を進めるということで企画は完成し、場所は福岡市街中心の西鉄グランドホテルと決定した。

3. 座談会の内容は、座談者が特に九州において日常業務の中で知財や弁理士と接している状況をなるべく事例に基づいて披露していただいた。お話を伺っていると今九州では行政が一番元気がいいのかと思えるほどに次々に新しい施策が打ち出されている。

ただ、弁理士業界はこのような行政の新しい行動に十分に併走できているのかいささか不安を感じた次第である。我々弁理士の知らないところで民間活性化のための施策が次々に実践され民間企業や大学はそれに乗っかって独自の路線を進んでいる。

せっかくに行政や民間が大学連携を含めて九州活性化に猛烈なアタックを進めているのに日本弁理士会の九州部会会員がその情報の埒外におかれているような現状を感じた。

この座談会の特集が産学官の活動に弁理士が積極的に参画するための起爆剤となれば幸いである。